

『P2P』刊行記念トークイベント 北田克治 × 大石侑香 「極と食」

極セカイ研究所（キョクセカイケンキュウジョ／略称：極セ研）は、主に南極を中心とした極域について、人文の視点からの総合的な批評活動を行うことを目的とした私設組織です。極セ研では、2024年3月にこれまでの活動の成果をまとめた冊子『P2P』第0号を刊行しました。

このたび、『P2P』にご寄稿いただいた、元南極料理人の北田克治氏と、文化人類学者の大石侑香氏をお迎えし、刊行記念のトークイベント「極と食」を開催いたします。

南極に挑む越冬隊員たちの胃袋を満たす仕事を通じて、極限化での共同生活を行う人々を見つめ続けた北田氏と、シベリアの民と彼らとともにあるトナカイの観察を通じて、人間と動物が過酷な環境の中で共生する様を観察してきた大石氏からお話をうかがい、「食」を通じて両極で生きる人々のあり方を掘り下げます。



北田克治 KITADA Katsuji 大阪住吉区出身。株式会社北田代表取締役。「京料理 美濃吉」、「旅館 吉川」での修行を経て、現在国際日本文化研究センター内レストラン「赤おに」店長兼料理長。1997年7月～99年3月の第38次、2003年7月～05年3月の第45次日本南極地域観測隊調理担当越冬隊として国立極地研究所へ出向した。



大石侑香 OISHI Yuka 1982年生。神戸大学大学院国際文化科学研究科准教授。博士（社会人類学）。シベリア先住民を対象にトナカイ牧畜や漁撈（ぎょろう）、狩猟採集といった生業活動、毛皮のサプライチェーン、北極環境変化と社会について研究している。主著は『シベリア森林の民族誌：漁撈牧畜複合論』（昭和堂、2023年）。



黒崎想 KUROSAKI Sou 1988年生。批評家。極セカイ研究所所長。批評誌『アーギュメント』（2015～2018年）での連載・編集をきっかけとして活動開始。音声と南極を中心的な関心とし、雑誌『P2P』編集ならびに「極論」のほか、仏教音楽「声明」に関する連載「声をかく」（ウェブメディア「ちえうみ」）などがある。

日時 | 2024年8月11日（日）16:30～19:00（途中休憩あり）

会場 | MEDIA SHOP | gallery1（京都市中京区河原町三条下る一筋目東入大黒町44 VOX ビル1F）

定員 | 35名（予約優先。当日空席があれば入場可）

予約 | <https://forms.gle/h99VMs74uSXrpGJC9>

料金 | 2000円（当日会場にてお支払いください）

司会 | 黒崎想（極セカイ研究所所長）

ゲスト | 北田克治／大石侑香



予約フォーム

